



# アートのある生活 —— 暮らしの中に心の豊かさを提案

## アートを身近に楽しむ美術館(ミュージアム)

J.フロントリテイリングは、国内外の素晴らしいアートをより気軽に身近にお楽しみいただけるよう、主要百貨店店舗内に美術館(ミュージアム)を設置し、話題性に富んだ展覧会を随時開催しています。絵画を中心に、写真、デザイン、絵本絵画など幅広い分野の魅力あふれる作品の数々を通じて、ご来店のお客様に心豊かな生活を提案し、地域への文化貢献をはかっています。

松坂屋では、名古屋店に百貨店の施設としては珍しい本格的な美術館、「松坂屋美術館」があります。風格と落ち着きある展示空間、展示品の保全・防犯・防災などの諸設備を完備した近代的な美術館です。大丸では、心齋橋店、梅田店、東京店、京都店、神戸店にそれぞれ「大丸ミュージアム」を設置しています。

2008年度は、大丸、松坂屋において右記のような展覧会を開催しました(札幌店は7階ホールで開催)。



### ■ 2008年度の主な文化催事開催実績

小堀遠州 美の出会い展	(松坂屋美術館、大丸神戸店)
相田みつを全貌展	(松坂屋美術館、大丸心齋橋店)
20世紀の巨匠たち 美を見つめる眼	社会を見つめる眼 (大丸梅田店、大丸東京店)
中右コレクション 四大浮世絵師展	(大丸東京店)
小磯良平 東山魁夷展	(大丸神戸店)
ジョン・バーニンガム絵本原画展	(大丸札幌店)
古代エジプトの美展	(松坂屋美術館、大丸神戸店)
中村征夫写真展 命めぐる海	(大丸梅田店、大丸札幌店)
マティスとルオー	(松坂屋美術館)
ピサロ展	(大丸東京店)
北斎 富士を描く展	(松坂屋美術館)
再興第93回 院展	(大丸心齋橋店)
白洲次郎と正子展	(大丸神戸店、大丸札幌店)
大三国志展	(松坂屋美術館) など

### ■ 2009年度開催予定



1. レオナルド・フジタ展「1927年ポートレート」
2. 国立エルミタージュ美術館所蔵 エカテリーナ2世の四大ディナーセット  
「カメオ・セルヴィス」より  
(左より) クリーム容れ、砂糖容れ、砂糖容れ受皿、コーヒー・ポット、  
コーヒー・カップ用ソーサ、コーヒー・カップ  
セーブル王立製作所、フランス(1778~79年)  
© Texts, photos, The State Hermitage Museum, St.Petersburg, 2009
3. イタリア美術とナポレオン展  
サンドロ・ボッティチェッリ「聖母子と天使」(1467~70年)  
Photo: Jean-François Paccosi
4. 東本願寺の至宝展 御影堂襖絵「安養六種図」(部分)望月玉泉筆

レオナルド・フジタ展 よみがえる幻の壁画たち(松坂屋美術館、大丸神戸店)  
国立エルミタージュ美術館所蔵 エカテリーナ2世の四大ディナーセット  
(大丸心齋橋店)

ボッティチェッリ イタリア美術とナポレオン展  
〜コルシカ島フェッシュ美術館コレクション (大丸京都店)

橋本関雪展 (大丸京都店)  
美しく生きる 中原淳一展 愛する心 (大丸神戸店)

宗祖親鸞聖人 七百五十回御遠忌記念 東本願寺の至宝展(松坂屋美術館)  
再興第94回 院展 (大丸心齋橋店)

チュニジア世界遺産 古代カルタゴとローマ展(大丸東京店)

※2009年度予定の展覧会名称などにつきましては、変更の可能性がございます。

# 建築家 W.M.ヴォーリスによる アール・デコの世界

1717年(享保2年)に創業した大丸呉服店が、現在の心齋橋の地にショーウィンドウのある洋風の店舗を構えたのは1914年のことでした。それから数年経った1918年10月、当時大阪でも珍しく個性的なゴシック様式の木骨4階建レンガ造りの百貨店が誕生しました。それが、W.M.ヴォーリス(1880-1964年)が大丸の建築を手掛けた最初でしたが、わずか1年4か月後には惜しくも焼失。現在の心齋橋店の建物は、4期に分けて計画的に建築が進められました。第1期工事は1922年に心齋橋筋側の南半分、第2期工事で同じく北半分を1925年、そして1932年の第3期、翌1933年の第4期増築工事で御堂筋側を完成し、地上7階のネオ・ゴシック様式の百貨店が出現することになりました。

建物の中間層は重厚感のあるスクラッチタイル張り、これを挟むように1階は花崗岩張り、最上階の外壁はテラコッタで緻密にデザインされています。大丸のシンボルとなっている孔雀のレリーフが施された玄関をくぐり抜けて店内に入ると、天井のフレスコ画、中央エレベータホール上部のステンドグラス時計など華やかなディテールが次々と現れてきます。それらはすべて、幾何学模様や抽象化された花や樹木、雪や鉱物の結晶など、ひとつのトーンで統一された、アール・デコの世界です。

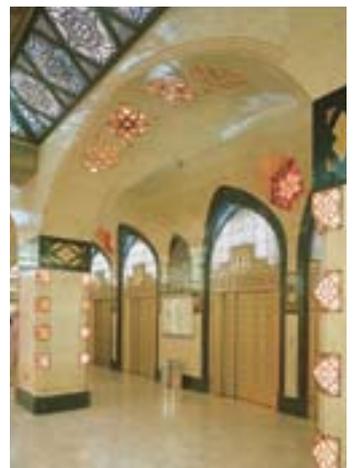
地域の店舗ごとに特色があるのが本来の百貨店。モノやサービスとともに、特別な時間・空間をお客様に提供する、心齋橋店としてのひとつのアプローチがここにあります。



孔雀のレリーフ



本館中2階(メザニン)



本館1階エレベータホール



本館2階エレベータ前



本館中央階段東側



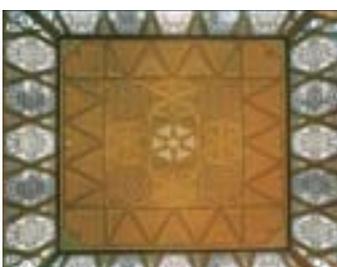
エレベータホールの装飾



レリーフ天井



ステンドグラス時計



フレスコ画の天井



イソップ寓話のステンドグラス



光と色彩の天井

# 京都染織デザイン研究所と 染織参考館



江戸期の町家の店構えを残す  
京都染織デザイン研究所



1万点におよぶ染織資料を収蔵する  
染織参考館

京都染織デザイン研究所は、1745年(延享2年)、当時大手呉服商であった松坂屋の京都仕入店として開設され、長年に亘って京呉服の仕入を担ってきました。その後、1931年に松坂屋の京都仕入店内に古今東西の染織美術品の収集を行う目的で「染織参考室」を開設して以来、日本の和装美の探求を続け、その時代、その時代の感覚にあった新たなきものデザインの研究と開発に携わってまいりました。1957年には近代的な収蔵庫として「染織参考館」を設置し、重要文化財クラスの貴重な染織美術品の数々を大切に保管しています。(1990年、「京都仕入店」は「京都染織デザイン研究所」に名称変更)

## ■ 京都仕入店の歴史

1611年に名古屋で創業した呉服商の松坂屋(いとう呉服店)は、1740年頃には尾張藩の呉服御用を務めるまでに業容を拡大し、1745年に京都に進出。事業のさらなる発展をはかり、当時高級呉服の産地であった京都に、仕入機能をもつ店舗である「京都仕入店」を構えました。店舗は当初室町錦小路に出店しましたが、4年後に現在地の新町通六角下ルへ移転しました。その後1788年の団栗火事、1864年の蛤御門の変、1900年の明治の大火などで再三罹災しましたが、その都度再建され、江戸期の町家の造りを今に伝えています。

## ■ 染織参考館の開設

大正から昭和にかけて、百貨店の大衆化が進み、呉服以外の品揃えが拡大して百貨店が百貨店らしく変貌を遂げていく一方、伝統的な染織の技を駆使した最高級の呉服の製作が求められていました。そんな時代背景の中、京都仕入店には1931年に「染織参考室」が設置され、オリジナル呉服の創作に役立てる目的で、奈良～江戸時代の日本や世界各地の染織美術品の収集が始まりました。衣装は、江戸時代の小袖を中心に、能装束、振袖、帷子、陣羽織、帯など、裂地は洋の東西を問わずに集め、エジプトのコプト裂、南米のインカ裂、インドの更紗なども収集。その他、小袖雛形本、能面、屏風、鎧・兜など、多種多様の美術・工芸品も含まれています。これらの美術品は、最初は京都仕入店の土蔵に収蔵されていましたが、文化財として永久保存するため、1957年に敷地内に近代的設備の整った染織参考館が建設されました。現在では約1万点におよぶ染織資料が収蔵されています。

## ■ 京都染織デザイン研究所の果たす役割

京都染織デザイン研究所では、染織参考館所蔵品の研究から開発されたデザインをもとにして、業界を代表する制作同人によるオリジナル呉服の企画・製作を行い、松坂屋ではそれらの作品を顧客の方々に展示・販売する「染織名作展」を毎年開催しています。第1回目は1935年秋に東京、名古屋、大阪で開催され、戦時中は中断を余儀なくされましたが、戦後の1950年に復活して以後継続し、2009年春には第63回展を開催しました。また、染織の伝統文化を継承する企業メセナにも力を入れており、1934年には参考館が所蔵する伝淀殿(豊臣秀吉の側室)所用の慶長小袖を、京都の制作同人である千總商店(現千總)に依頼して復元し、文献にも掲載されました。参考館に所蔵の美術品は、国内外の国立博物館や美術館で開催される染織特別展などに参考品の展示申請があれば、検討のうえ貸出の協力も行っていきます。最近の一般展示としては、2008年に東京(サントリー美術館)、名古屋(名古屋市博物館)、2009年に大阪(大阪市立美術館)にて開催された「小袖 江戸のオートクチュール展」があり、江戸時代の小袖を中心に参考館の秘蔵のコレクション約300点を一堂に紹介し、3地区合計約13万人のご来場者の方々に絶賛をいただきました。今後も多くの方々に、これら世界に類を見ない日本染織美術の粋に触れていただく機会を創出し、わが国の貴重な伝統美を継承する一役を担っていきます。



淀君が着用したと伝えられる慶長小袖



萌葱縮緬地扇面模様振袖(江戸中期)